2024.08.22 THU

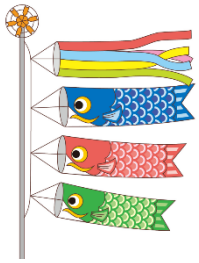
仙台大学通信教育指導室メールマガジン　第７４号

通信教育指導室から、こんにちは。

東日本大震災発災から約１年間、仙台大学の学生は足繁く女川町に通い、被災者の健康づくり支援や子どもたちの学習支援に尽力しました。

その過程で関わりのあった女川第一中学校の生徒たちが、様々な困難や葛藤を乗り越えながら、家庭や学校で過ごした日々のできごとや思いを、五七五や作文に託しました。

見上げれば	**ガレキの上に**	**こいのぼり**	３年　原　　泉美
逢いたくて	**でも会えなくて**	**逢いたくて**	３年　佐藤あかり
ただいまと	**聞きたい声が**	**聞こえない**	３年　木村　朱里
空の上	**見てくれたかな**	**中総体**	３年　鈴木　友理
戻ってこい	**秋刀魚の背中に**	**のってこい**	３年　阿部　碧仁
うらんでも	**うらみきれない**	**青い海**	３年　星澤　　岬
止まってた	**女川の時間**	**動き出す**	２年　千葉はるな
そばにいる	**仲間がずっと**	**そばにいる**	１年　阿部　美紅



私 の 挑 戦

女川町立女川第一中学校　３年１組　三浦那美

私はずっと迷っていました。駅伝の練習に参加するかどうか。

「駅伝は自分への挑戦」

私はそう思っています。過去２年間、試走のメンバーには選ばれたものの、本番で走ることはできませんでした。だから今年こそはという思いはありました。でも、春の大会でけがをした左足首が不安でした。さらに今年は昨年までと違い、１校から１チームしか出場できません。今の自分にあの炎天下の苦しい練習をやり抜いて、選手になれるだろうか、自信が持てずにいました。

私の姉は３月１１日の東日本大震災で亡くなりました。まだ１７歳でした。

卒業式の準備中に突然起きた大きな揺れ、そして大津波。女川の町は何もかも流されてしまいました。

その夜、総合体育館に避難していた私に、届いた知らせはあまりにも悲しいものでした。

前の夜「おやすみ」と言ったのが最後の会話でした。他にきょうだいのない私は一人っ子になってしまいました。

中学校でテニス部に入ったのも姉の影響です。最後の中総体は応援に来る約束でした。しかし、その約束は永遠にかなわないものになりました。一緒にテニスをすることも、今度やろう今度やろうと言って、結局できませんでした。

今になってああすればよかった、こう話せばよかったと後悔することばかりです。姉はもういないのに「ただいま」と帰って来そうな気がします。

生きたくとも生きられなかった姉のことを思うと、やる前から諦めるわけにはいかないと、私は決意しました。駅伝大会に出て、天国の姉に見てもらおうと。

こうして今年も自分への挑戦が始まりました。毎朝、毎朝、繰り返される過酷なタイムトライアル。走っても走っても、思うようにタイムが伸びないという現実。足が痛むのに無理をして悪化させてしまい、悔しくて泣いた日もありました。

練習をリタイアして、声がけしていても、つらい気持ちは今走っている人にしか分からないのに、こんな私が「ファイト」の一言を本当にかけていいのかわからなくなりました。でも、そんなある日、3年間一緒に駅伝に参加していた一人が、何気なくつぶやきました。

「那美が駅伝やるって言ってくれて嬉しかった」

自分が頑張ることが、誰かの役に立っていたんだと知り、大会に出て結果を残すことだけが目標ではないと分かりました。みんなが走っている。仲間であり、ライバルであるみんなが走っている。姉に見てもらいたいのは、そんな仲間と一緒に頑張っている自分だったんだ。最後の試走の時は自分にとっての本番だと思い、必死で襷をつなぎました。

大会当日は選手のサポートと応援に回りました。私は自分に与えられた役割を全力で果たそうと思いました。辛い練習を一緒に頑張ってきた仲間たち。大会では５人しか走れなかったけど、みんなの思いが詰まった１本の襷だったと思います。

今年の駅伝部は、男女ともに入賞を果たし、町の人たちもとても喜んでくれました。きっと姉も見ていてくれたはずです。

女川一中では「女川の元気は一中から」が今年の合い言葉です。

先日、文化祭実行委員長になりました。私の挑戦はまだまだ続きます。

『女川一中生の句 あの日から』小野智美編（はとり文庫 2012）p.159 一部編集

● **仙台大学が女川第一中学校へ贈った支援物資**……(株)GANBAX 等提供

【 ジャージ、Ｔシャツ、陸上ユニフォーム上下セット、雷管ピストル、バトン 】

『仙台大学 Monthly Report Vol.62 / 2011 Jun.』に、次のような礼状が掲載されています。

> 皆様の支援のおかげで元気は取り戻しつつあります。授業も部活動も本格化してきました。大事に着させていただいています。ありがとうございました。
>
> 女川第一中学校 生徒一同

三浦那美さんもこのユニフォームに袖を通し、駅伝部の仲間とともに汗を流したに違いありません。子どもたちに寄り添い背中を押した仙台大学の取組に、胸が熱くなります。